Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所

REPORT

Peace Conference of Youth

2018



INDEX

01　世界平和学生憲章

02　2018年度のPCY事業(本年度のテーマ/本年度の目指すアクション)

03　実施までのプロセス

04　コンセプト・プログラム構成

05　事業構成およびスケジュール・参加者

06　理事長挨拶

07　委員長挨拶

08　事業紹介 - 募集

09　事業紹介 - 開講式

12　事業紹介 - バーチャルカンファレンス準備プログラム

14　事業紹介 - バーチャルカンファレンスリハーサル

15　事業紹介 - バーチャルカンファレンス

21　事業紹介 - PCY海外プログラム

27　事業紹介 - PCY2018 [プログラム内容・スケジュール]

28　事業紹介 - PCY2018[9/6-9/8 グループワークプログラム]

30　事業紹介 - PCY2018[9/9 SDGs×PCYフォーラム2018]

31　事業紹介 - PCY2018[9/9 PCY2018修了式]

32　成果報告 - PCY2018アクションプラン

38　成果報告 - アンケート・意識調査結果

42　記録 - ファシリテーター紹介

43　記録 - 広報活動

44　記録 - 参加学生一覧

45　記録 - スタッフ一覧

46　記録 - 写真集

世界平和学生憲章

私たち、Peace Conference of Youth（PCY）のメンバーは、団結と連帯の精神に則り、共に行動すること、他の全てのメンバーと知識やアイデアを共有する為の機会を十二分に活かすこと、対話を促進すべく全てのメンバーが発言すること、開かれた心と柔軟さを持って他者の意見に熱心に耳を傾けること、相違と譲歩の双方を受け入れながら、尊敬と共感を持って、私達の仲間と接すること、そして信頼、楽観、率先、責任をもって実行することをここに宣言します。私たちは、1人ひとりの個人として、〝PCYコミュニティ〟において積極的に参加すること、私たちのコミュニティや世界中の仲間と共に、自身の経験や価値観を共有すること、そして平和構築と開かれた意見交換の場を展開・継続することを、ここに表明します。

私たちは、現在世界で最も深刻である具体的な問題に関心を向けつつ、人権を保証し促進することを誓います。

- a.紛争と兵器
- b.開発と貧困
- c.環境
- d.ガバナンス
- e.保健衛生
- f.弱者の権利

これらの課題を乗り越え平和を追求することを強く望むことから、相互理解、寛容、協力の精神を持ってあらゆる人に開かれた意見交換の場を展開するため、公式、非公式を含む教育へのアクセスとその価値を高めるため、自己の可能性を十分に理解して自己開発・自己実現することへの欲求を誰もが現実にするため、職場環境と雇用創出を促進するため、十分な主張の機会がない若しくは恵まれない立場にいる人々の意見を汲み取り反映するため、限りある資源を責任をもって使用し資源の浪費を防ぐため、企業が企業の社会的責任に関する活動を着手・展開することを奨励するため、個人・市民社会・企業・政府等全てのアクターが環境保全に関する自覚を持つことを啓発するため、革新的で持続可能な技術に投資・開発することを促進するため、そして、武力紛争に対する予防策・解決策を提案・支持するために、私達は共に語り合った仲間や未来のPCY参加メンバーと協力してパートナーシップを築き、そして、これを結束したコミュニティとして実現し強化するために、議論の場を発展させ、拡大していきます。

私たちは、自身の価値を高めることで、リーダーとなるべく自己を成長させ、社会のあらゆるレベルにおいて、他者を動機づけ、喚起し、平和の追求のために共に行動します。

2018年度のPCY事業

- 本年度のテーマ -

TRUE HEART FOR NEXT INNOVATION
～素直な心で次なる革新を生み出そう～

開発途上国に暮らす人々の保健医療サービスへのアクセスは、近年改善を見せる一方で、社会階層間の格差が際立ってきています。 世界保健機関（WHO）によると、世界では、毎年1億5,000万人もの人々が家計が破綻するような医療費の負担を強いられ、うち1億人がそれによって貧困ライン以下の生活に陥っています。 我が国においても社会保障費は年々拡大しており、今後は少子高齢化といった人口構造の変化によって益々拡大し、国民皆保険制度も含めた社会保障制度の持続可能な運営が困難になることが予想されます。 このような世界が直面している課題の解決には、異なる意見にも耳を傾け、それを受け入れる寛容な心をもたなければなりません。 素直な心で他者を思いやり、世界の問題解決に協力していくことで、平和が持続し、繋がり続けてきた命の鎖を次の世代によりよい形で引き継がれていくと考えます。

- 本年度の目指すアクション -

世界の保健医療問題にフォーカスし、問題を解決する仕組みを構築する。

SDGsの17ターゲットから、本年度はGoal 3の保健医療分野の提言を作成してもらいます。
2025年誘致を目指している大阪万博においても、サブテーマで「多様で心身ともに健康な生き方」が挙げられており、一人ひとりの健康な生き方について考えることが注目されています。「健康な生き方」とは、WHOが定義しているように、「肉体的、精神的、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」であることを指します。途上国において適切な保険医療サービスを提供するための保健システムの脆弱さにより、感染症拡大を防ぐことが出来ず、またUHC実現の障害となっています。生活習慣の改善や予防が不十分であり、すべての途上国においての非感染症疾患（NCD）による死亡が増加しています。また、先進国においても医療財政のひっ迫や肥満など健康問題があります。保健医療問題は、まさに持続可能な世界を実現するうえで最重要テーマの一つと言えます。

2018年度PCY事業においては、グローバルな視点で人々の健康的な生活をいかに確保し、福祉を促進していくのかについて考えることにより、SDGsのゴールに近づくとともに、世界学生平和憲章に定める保健衛生の課題を解決し、世界平和に貢献する突き抜けたリーダーの創出を行います。

実施までのプロセス

1 憲章の精神

The Charter of PCY(世界学生平和憲章)の精神に基づき2018年度PCYプログラムでは健康福祉を課題と設定しました。

2 PCY2018 参加メンバーの選定

関西の大学・大学院、過年度PCY fellow、各種団体へ事業告知、参加募集を行い、意識の高い日本人学生20名を選定しました。

3 PCY開講式

PCY開講式では、国連SDGsヤングリーダー Ranier Mallol氏（AIME社長）や元UNDP駐日代表事務所でコンサルタントを務められた小原愛氏（Japan Innovation Networkシニアマネージャー）をお招きし、公演を行いました。
SDGsの具体的なゴールに向けたアクションや技術革新について学びました。

4 PCYバーチャル カンファレンス

PCYバーチャルカンファレンスでは、5か国の学生でSDGsゴール3：健康福祉問題についての課題解決アクションプランについて議論を交わしました。

5 PCY海外 プログラム

PCY海外プログラムでは、電子国家エストニアと福祉国家フィンランドを訪問し、現地の政府施設や企業、大学などを見学するとともに、現地学生とSDGsゴール3：健康福祉問題についてのワークショップを行いました。

6 PCY合宿 プログラム

合宿プログラムでは、日本人学生に外国人留学生を含めSDGsゴール3：健康福祉問題について３つのアクションプランを作成しました。

7 SDGs×PCY フォーラム2018 での発表

合宿プログラムにおいて作成した３つのアクションプランを市民向け公開フォーラムで発表しました。

コンセプト・プログラム構成

テーマ：TRUE HEART FOR NEXT INNOVATION〜素直な心で次なる革新を生み出そう〜

① PCYの目的共有

The Charter of PCY”(世界学生平和憲章)の基本理念を理解し、その実現の為にクリアすべき課題が何かを具体的に話し合い、また2018年度のPCYのテーマであるTRUE HEART FOR NEXT INNOVATION〜素直な心で次なる革新を生み出そう〜に込められた意味、健康福祉問題を本年度の課題にした意義を共有しました。

② 受け継がれてきた精神性に関心を抱く

「素直な心」についての考察を行うことにより、潜在的に有している過去から連綿と受け継がれてきた日本人としての固有の精神性を呼び覚ましてもらいました。

③ 技術革新の先にある人の在り方を模索する意欲を携える

国連SDGsヤングリーダーや、元国連職員の話を聴くことにより、物質的にも精神的にも豊かさをもたらす幸福な人の在り方について探求していく意欲を高めてもらいました。

④ 次代を共に創造する人びとの価値観を理解する

世界５か国の学生とバーチャルカンファレンスを行ったり、IT技術や福祉先進国へ訪問することにより、価値観は育ってきた環境から影響を受けるものであり人それぞれ個性を持った異なるものであることを理解してもらいました。

⑤ 素直な心を世界に拡げる気概を有する

日本国内への留学生とSDGsゴール3：健康福祉問題について議論を深めることにより、為すべきことをなす思いやりの精神性を日本人が有する素直な心で世界に拡げていく使命感を有してもらいました。



⑥ 物質的にも精神的にも豊かさをもたらす未来を実現する

これまでのプログラムを踏まえ、SDGsゴール3：健康福祉問題についてのアクションプランを一般市民向けフォーラムにおいて発表することにより、人びとの未来に貢献する想いを響き合わせた協働から人類の真の進歩と調和を実現する行動力へと昇華してもらいました。

事業構成およびスケジュール

募集 ＊国内学生向け	・募集期間　2月1日(木)～4月15日(日) ・選考結果通知　4月中旬
開講式 ＊国内学生向け	・実施日　4月28日(土) ・内容　基調講演/2030SDGｓカードゲーム
バーチャル カンファレンス 準備プログラム ＊国内学生向け	・実施日　5月12日(土) ・内容　基調講演
バーチャル カンファレンス リハーサル ＊国内学生向け	・実施日　6月24日(日)
バーチャル カンファレンス	・実施日　6月30日(土) ・内容　日本を含め５か国の大学生による、スカイプを用いてのテレビ会議
海外プログラム	・実施日　7月30日(土)～8月4日(土)
合宿プログラム	・実施日　9月6日(木)～9月8日(土)
ピース カンファレンス フォーラム	・実施日　9月9日(日) ・内容　ピースカンファレンスフォーラムでのアクションプランの発表

- PCY国内参加者大学 -

京都大学 KYOTO UNIVERSITY
大阪大学 OSAKA UNIVERSITY
立命館大学
同志社大学 Doshisha University
関西大学
大阪薬科大学 Osaka University of Pharmaceutical Sciences
近畿大学 KINKI UNIVERSITY
Smart and Human 摂南大学
神戸市外国語大学 Kobe City University of Foreign Studies
"なりたい自分"を発見する。流通科学大学
関西学院大学 KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
京都府公立大学法人 京都府立医科大学 KPUM
KIC 神戸情報大学院大学

- PCY参加者国籍 -


日本

中国

スペイン

フランス

エストニア

マリ共和国

コンゴ民主共和国

バングラディシュ

モンゴル

南アフリカ共和国

台湾

タイ

理事長挨拶



一般社団法人 大阪青年会議所
理事長
竹田 哲之助 Takeda Tetsunosuke

恒久的な世界平和の実現を目的に、2010年より事業をスタートさせて頂きましたPeace Conference of Youth（PCY）も本年で8回目の開催となりました。

本年も多くの教育機関、企業、団体の皆様のご理解とご協力を賜りプログラムを終えることができましたことをご報告させて頂くと共に、心より感謝を申し上げます。

本年度、私たち大阪青年会議所は、次なる革新で「人類に真の進歩と調和」をもたらす「BREAK THROUGH OSAKA」の実現をめざして活動を展開して参りました。

「人類の真の進歩と調和」＝「物質的にも精神的にも誰もが幸福を追求できる世界」の実現には、何事にもとらわれず、すべてを受け入れる日本人の心を世界に拡げ、次なる革新を生み出す「突き抜けた人材」の育成が必要です。

参加を頂きました学生の皆様には、国連が推進するSDGs（持続的な開発目標）から世界平和に繋がるテーマを定め、世界中の新たな仲間と、侃々諤々の議論を繰り返し、相互理解を深める中で、共に「突き抜けた人材」へ成長する機会を提供させて頂きました。

4月に国連が世界中から選出した17名の国連ヤングリーダーズの１名を招聘しPCY開講式を実施し、6月に4大陸を同時に結んでの海外学生とのヴァーチャルカンファレンスを実施させて頂きました。

8月にIT先進国家エストニアへの海外プログラム、9月には国内留学生とのPCY本体プログラムとBREAK THROUGH OSAKA 2018 EXPOにてSDGs×PCYフォーラムを開催させて頂きました。

すべてのプログラムを修了し、PCYフェローとなった学生同士が深い信頼関係で結ばれ、世界により良い変化をもたらす「新しい価値」を創造し、人類に真の進歩と調和をもたらす突き抜けた人財として、ご活躍されることを心から期待しております。

一般社団法人 大阪青年会議所
第68代 理事長 竹田 哲之助

委員長挨拶



矢本　浩教

PCY2018は、人類に真の進歩と調和をもたらす突き抜けた人材を輩出することを目的に、大学生の皆さまを対象として、世界中の学生と健康福祉問題についての課題解決アクションプランを策定する事業プログラムを行いました。

世界が直面している課題の解決には、受け継がれてきた精神性に関心を抱きつつも、異なる意見にも耳を傾け、受け入れる寛容な心をもたなければなりません。素直な心で他者を思いやり、世界の課題解決に協力していくことで相互理解が生まれ、平和が持続し、次の世代によりよい形で引き継がれていく持続可能な世界が実現すると考えます。そこで、本年度のテーマは、「TRUE HEART FOR NEXT INNOVATION～素直な心で次なる革新を生み出そう～」とさせて頂きました。

まずは、「突き抜けた人材」のゴールイメージを持っていただくために、国連の持続可能な開発目標であるSDGsの達成を推進するUNヤングリーダーズに講演頂き、プログラムのゴールイメージを明確にしました。

また、技術革新の先にある人の在り方を模索する意欲を携えて、次代を共に創造する人びとの価値観を理解して頂くために、日本を含む5か国の学生とPCYバーチャルカンファレンスを実施しました。また、問題の背景をより深く理解してもらうために、福祉先進国フィンランドと、電子国家と呼ばれるエストニアへ訪問する海外プログラムを実施しました。

最後に、留学生と共に、世界の問題を深く議論し、解決策を模索する機会としてPCY事業とフォーラムを行いました。学生が出来る世界平和という観点で作成したアクションプランを市民の皆さまの前で発表しました。

結びになりますが、熱心にご指導いただきましたヴァージル・ホーキンス先生及びヤニー氏を始め、カウンターパートの皆さまに心より感謝いたします。また、学生の皆さまには、この機会を活かし、世界を変革する突き抜けた人材になって頂くことを切に願います。

一般社団法人 大阪青年会議所　世界変革室
相互理解確立委員会 委員長　矢本浩教

事業紹介

01 募集

募集の際の質問事項に、国連の第３期「ヤングリーダーズ」に興味があるかどうかを加えることで、具体的に世界平和及び持続可能な世界の実現（SDGs）に資するリーダーになることに興味・関心があるか確認しました。募集の段階からゴールイメージとして、世界のリーダーになることを意識してPCY事業へ参加して頂くことにより、運動の効果を高め、突き抜けた人材の育成を行うことを目的としました。



◀ 募集用チラシ

チラシ配布先	割合
大学	72%
ワン・ワールド・フェスティバル	12%
ＴＥＤｘYouth@Namba	10%
その他	5%
計	100%





ワン・ワールド・フェスティバルでの募集の様子▲

施策	割合	備考
大阪青年会議所メンバーからの紹介（相互理解確立委員会内）	46%	バスケットボール協会、ＴＥＤｘ等のイベント
大阪青年会議所メンバーからの紹介（他委員会）	24%	
大学からの申し込み（訪問してＰＲをした大学）	15%	大学教員や直接学生に声かけ
ＦＢ／ＨＰからの申し込み	9%	
その他	6%	GAO参加者、過年度ＰＣＹメンバーからの紹介
大学からの申し込み（チラシ送付／掲示板での案内）	0%	春休み重複のため効果が薄い
計	100%	

事業紹介

02 PCY2018開講式







PCY2018開講式では、国連からSDGsの達成に貢献するヤングリーダーズの一人として選ばれた、人工知能と疫学的専門知識およびデータ分析を使用して主要な疾病の発生を予測するツールを開発したAIMEの共同創設者兼CEOであるRainier Mallol氏、SDGsをビジネスで達成するための活動に注力されている、一般社団法人Japan Innovation Networkの小原愛氏をお招きし、基調講演を行いました。







開講式では、社会人向け人材育成プログラムの大阪変革塾と共催で基調講演を聞いた後、SDGsカードゲームで本年度PCYのテーマとなっているSDGsの相互理解を深めると共に、５つのチームに分けてチームビルディングを行いました。

基調講演の後には、講師に質問しに行き学生が相談する姿など今後のキャリアについての意識が高まった様子を感じることができました。

事業紹介

基調講演 - 講師紹介 -

AIME

共同創設者兼CEO　Rainier Mallolさま



ドミニカ共和国出身。25歳。
18,000人を超えるノミネートから選出された国連ヤングリーダーズ17人のひとり。SDGs達成のために優れたリーダーシップを発揮している。疫学、大規模なデータ分析、人工知能を利用して、AIMEは感染症の発生時刻と場所をリアルタイムで予測するツールを開発。また、持続可能な開発目標3を支援するために、HIV、結核、マラリア、その他の放置された熱帯病の拡大にどのようにモデルを適用できるかを検討している。



一般社団法人Japan Innovation Network

シニアマネージャー　小原愛さま

米国ウェスタンミシガン大学開発行政学修士。
Japan Innovation Networkが国連開発計画（UNDP）とともに立ち上げた、「持続可能な開発目標」（SDGs）をイノベーションの機会と捉え、途上国の課題の探索とそれをビジネスで解決するためのビジネスモデルとネットワークの構築を目的とした、イノベーション・プラットフォーム「SHIP」の企画・構築・運営を担当。

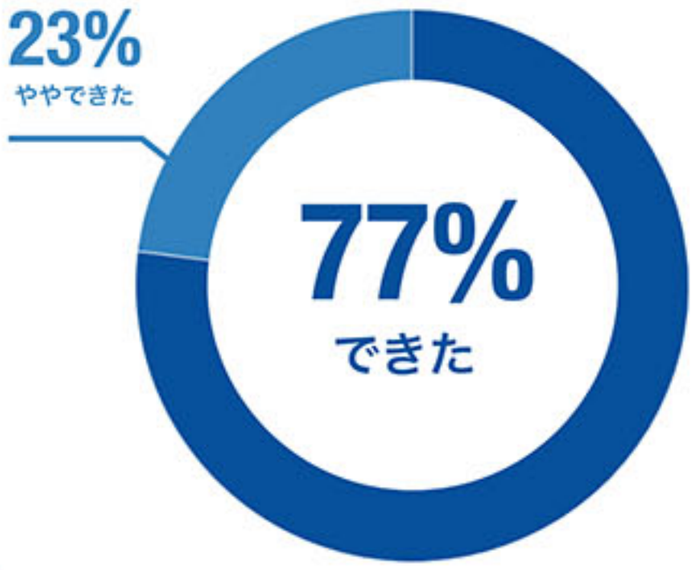
1992年に野村総合研究所（NRI）の地域計画研究部に研究員として入社。途中、外務省JPOとして国連世界食糧計画（WFP）で2年間、アンゴラ、ボツワナ等の食糧支援を担当。また、経済同友会に出向し、「新しい日本」に関する提言とりまとめなどに携わる。2007年CSR推進室長、2009年広報課長を経て、19年間勤務したNRIを退社。2012年から2016年までUNDP駐日代表事務所で民間連携担当のコンサルタントとして、途上国開発に貢献する民間企業との連携促進に携わる。

事業紹介

- PCY開講式後アンケート結果 -

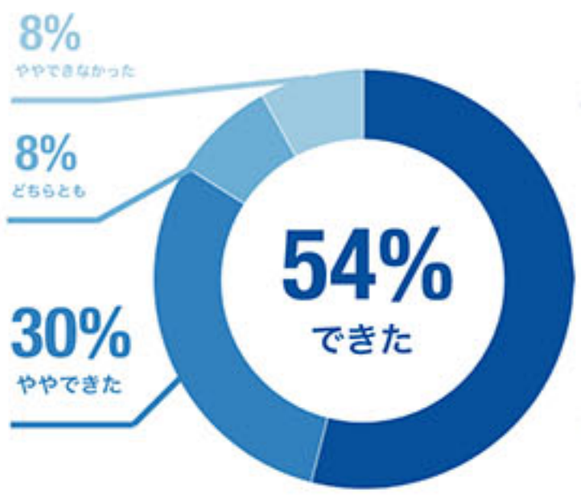
PCY2018開講式では基調講演やグループワークを通じてヤングリーダーとしての意識を高める事が目的でした。実施後アンケートでは学生の意識変化を示す結果が得られました。また、自由回答パートでは現状の自分を客観視できた事、現在の世界が抱える問題を知り自ら率先して行動を起こす必要性を感じた事についての意見が多く見られました。

1 このプログラムに参加して、持続可能な未来に向け若者自らが先頭に立って行動する必要性を感じることができましたか？



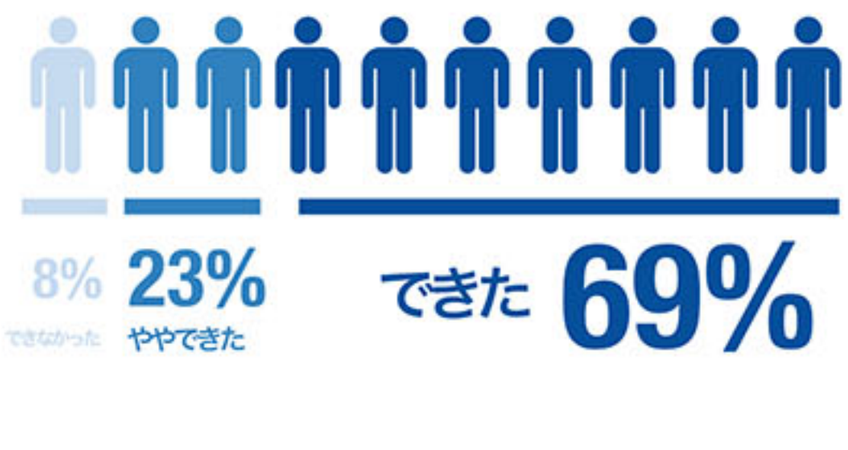
- ラニエルさんの講演を通じて、世界中にSDGs達成に向けて真剣に取り組んでいる若者がたくさんいる、そして私もその一員となっていかなければならないと思いました。
- 優秀な学生に囲まれ、自分の実力不足を感じた。
- SDGsに向け、PCYの活動を通じて自分自身にできることを見出したいと思いました。

2 プログラムを通じて、SDGsは実際のビジネスと密接に関わっていて、身近なものであると感じる事ができましたか？

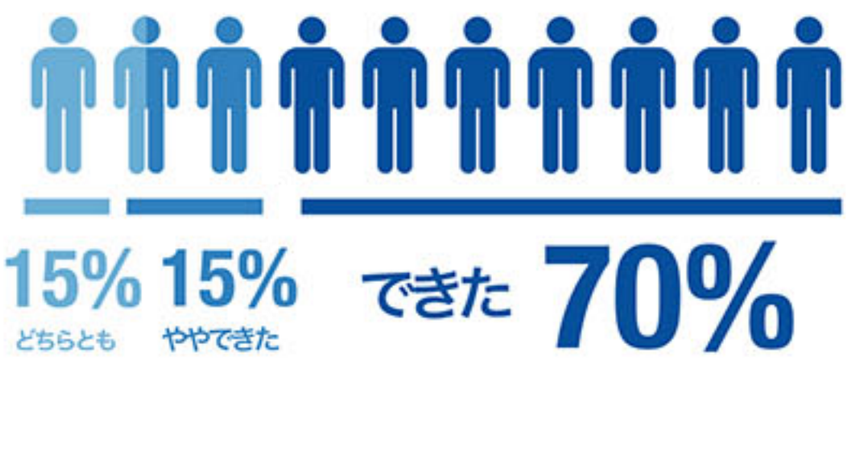


- カードゲームをしたときに、SDGsは深く実際のビジネスに関わっていると感じました。私にとって、あのカードゲームは、本当にこの世の正解を表していると思いました。
- 小原さんの講演で、企業がCSR活動にSDGsを取り入れているということを知った。
- SDGsは身近なものと感じましたが、「収益性」を第一に考えるビジネスと密接にかかわっているとは言いにくいのではないかなと思いました。

3 SDGsカードゲームを通じて、世界の問題と自分の生活が繋がっていると知る機会となりましたか？



4 SDGsカードゲームのグループワークを通じて、仲間との信頼関係は深まりましたか？



事業紹介

03 バーチャルカンファレンス準備プログラム





- 準備プログラムについて -

本年度のPCYは「バーチャルカンファレンス」と題して、PCYメンバーに世界の学生とスカイプを用いてSDGs Goal3についてディスカッションをしていただきます。それぞれの学生の母国のSDGs Goal3に関わる平和阻害要因をプレゼンし、互いの国の問題点を共有し世界の問題について当事者意識を持ち、相互理解を深めます。

6月24日のバーチャルカンファレンスリハーサル、6月30日に行われる当日のプレゼンに備え、一般社団法人大阪青年会議所事務局で5月12日にバーチャルカンファレンス準備プログラムを開催しました。

- 実施事項について -

一般社団法人日本プレゼンテーション教育協会西原理事、同志社大学瓜生原先生にそれぞれご講演いただき、バーチャルカンファレンスで必要な知識をインプットしていただきました。また、PCYメンバーたちはグループに分かれ、それぞれが考える国内のSDGs Goal3の諸問題について意見交換し、理解を深め合うことが出来ました。









事業紹介

基調講演 - 講師紹介 -

一般社団法人　日本プレゼンテーション教育協会

代表理事　西原猛さま



俳優、PR・IR支援企業グループマネジャー、講師派遣会社取締役と、エンターテイメントから会社経営まで、幅広い経歴を持たれている。上場企業の新製品発表会や決算説明会、株主総会などのPR・IR支援に携わっていたとき、プレゼンテーションの成否が、企業や個人の”その後”を左右することを痛感。東京の研修会社で講師業を学んだ後、独立し協会を設立。代表理事に就任。全国の企業や学校、教育機関などでご活躍されている。



同志社大学商学部

准教授　瓜生原葉子さま

医薬品メーカーなど数社の民間企業をご経験され、2014年から同志社大学へ。

世界最低レベルである日本の臓器移植の現状に問題意識をもたれ、どうすれば、一人でも多くの方が移植医療の理解を深め、死後の臓器提供を身近に感じ、臓器提供の意思表示があたりまえの社会になるのかについて研究をしておられる。人々の願い（human value）を実現可能にするtechnologyはあっても、実行可能にする社会のしくみが整備されていなければ、真の『ソーシャルイノベーション』は起こらないとし、多様な専門分野を横断的に再編して新しい分野を創成する「学融合（trans disciplinary）」によって、その社会のしくみを探究し、結果を社会に還元し、結果を基に自らも実践し、社会課題の解決に注力されている。

事業紹介

04 バーチャルカンファレンスリハーサル







前項の準備プログラムに続き、6月24日に大阪イノベーションハブにてバーチャルカンファレンスリハーサルを実施しました。PCYメンバーは、５つのグループに分かれ、① ＵＨＣ　② 孤独死　③ 高齢化社会への対応　④ 結核　⑤ 自殺をテーマにプレゼンテーションを行って頂きました。

また、本プログラムでは学生たちもバーチャルカンファレンス当日に発表するグループの選考に加わり、当日の発表グループを決定しました。







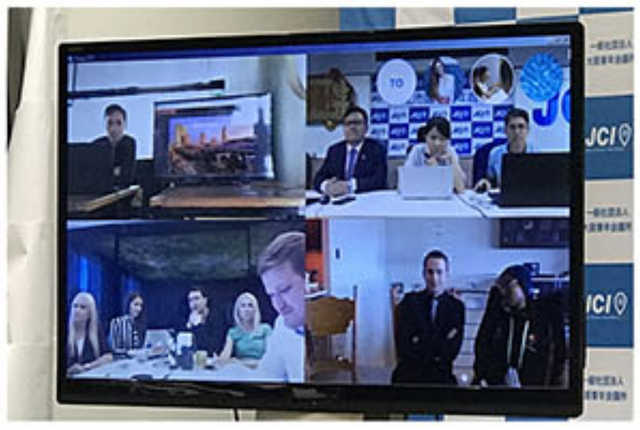






事業紹介

05 バーチャルカンファレンス







6月30日に関西大学梅田キャンパスにて、バーチャルカンファレンスを実施しました。基調講演として、大阪大学大学院のヴァージル・ホーキンス先生にご講演いただきました。その後、日本・台湾・タイ・エストニア・南アフリカ共和国の学生がそれぞれの母国のSDGs3についてプレゼンテーションを実施し、意見交換を行いました。







バーチャルカンファレンスは、スカイプを用いて同世代の学生と会議を行うことでより効果的に他国の社会問題の背景を知ると同時に、海外プログラム及びPCY本体事業への参画モチベーションが高まることを目的にプログラムを行いました。結果として、海外の学生のプレゼンや他国の学生同士のやりとりを見て、日本人学生のモチベーションも高まり、実際に海外に行った時には初めて出会うのではなく再会した時のように喜びが自然と沸き起こるという副次的な効果もありました。

事業紹介

- ヴァージルホーキンス先生（大阪大学）基調講演 -







WHOの研究発表によると健康な生活を脅かすものについては高所得国家においては、心臓病、脳梗塞、癌（平均寿命８１歳）があげられます。低所得国家においては、呼吸器疾患、HIV/AIDS、下痢疾患（平均寿命５９歳）となっています。問題は医療の解決のみを追求しても解決しません。健康な生活のためには、貧困問題、家族の問題、薬、栄養問題の複合的な要素が絡み合って健康問題となっています。また、まずは、だれも傷つけない、平和を脅かすようなアクションプランを選択しないということが大事です。世界のお金持ち４２人の収入と下位３７億人の収入が同じであり、富める者は益々富んでいくという現実があります。一方で国際報道の偏りも問題となっている。日本の３大新聞が報道したところによるとMERS、ジカウイルス、エボラウイルスに関する記事が記事総数の半分を占めるという現実があります。このような報道の偏りの問題があるということに気づいて頂きたいと思います。健康問題も世界の問題と密接にかかわっていることを実感して貰いたいと考えます。アフリカの問題に関して革新を生み出し、解決に導きつつあるアフリカの問題などもあります。健康問題を脅かすものは、例えば搾取の問題があることを認めて、もっとフェアトレードを増やす。平等や援助の気持ちを大事にすることが大事となっています。

- 日本、エストニア、台湾、タイ、南アフリカの学生による それぞれの母国のSDGs Goal３についてのプレゼンテーション -

各国のプレゼンテーションでは、その国の背景や、文化や歴史の紹介まで盛り込まれ、PCYメンバーに異文化についての理解と当事者意識をもたらしました。SDGs3のターゲットを見るだけでは理解できない、各国の平和阻害要因とソリューションの提案は、あとに続く海外プログラム、ピースカンファレンスフォーラムへと繋がりました。

事業紹介

プレゼンテーション
日本

テーマ：Universal Health Coverage For all







ユニバーサルヘルスカバレッジについて世界各国の状況及び今回のバーチャルカンファレンス参加国の状況をサマリーした上で、アプリを用いて対面でない質問を行うことですべての人が貧困や無知といった問題をクリアして、健康な生活を営める方法を提案しました。

プレゼンテーション
台湾

テーマ：Taiwan’s National Health Insurance







国民健康保険制度について、台湾の国及び国民健康保険の歴史をサーベイした上で、高い満足度の制度を今後クラウドシステムを用いてよりアクセスしやすい仕組みを提案しました。

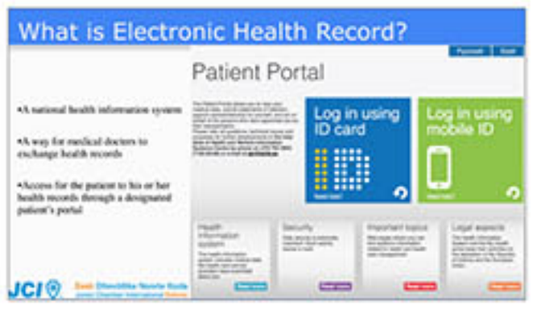
事業紹介

プレゼンテーション
エストニア

テーマ：Problems and solution in the field of SDG3







エストニアにおいては９０％以上の保険カバー率ですが、健康福祉問題は、アルコール中毒、タバコ、HIVの３つがあります。そしてイーヘルスシステムがエストニアにはあり、非効率な病院経営等を解決できる仕組みがありますという提案をしました。

プレゼンテーション
タイ

テーマ：NCDs Diseases（Road Accident）







タイの健康福祉問題は、癌、糖尿病、心臓病などもあるが、死亡率に直結する問題として交通事故があります。解決策としては短期的にはドライブレコーダーの設置により、交通事故を減らし、長期的には健康に関心を持つ子供増やしたり、インフラ整備などがあると提案しました。

事業紹介

プレゼンテーション
南アフリカ共和国

テーマ：SDG s 3 in Republic of South Africa





南アフリカの歴史的背景としてアパルトヘイトがあります。その上で、健康福祉問題の解決策としては、社会教育、官民一体化を進める、アフリカの課題をアフリカの方法で解決する、ウブンツという南アフリカのプログラム、医療の専門家を進める方法を提案しました。

- ヴァーチャルカンファレンス参加後の学生・関係者からの感想 -



南アフリカ共和国

こちら側の問題でスタートがうまくいかなかったことを謝罪しなければなりませんね。でも結局は全てうまくいきましたね。私の生徒はとてもこの試みを楽しんでいました。会議後もコーヒーを飲みながら面白いディスカッションができました。地平線を越えてこのような素晴らしい機会を提供していただきありがとうございました。このような未来を構築する努力をこれからも共に続けていきましょう。

Abel Esterhuyse 先生



台湾

PCY台北を代表してこの会議に参加させていただいたことを光栄に思います。このミーティングを通じて自国の健康福祉問題について知るのみならず、各国の学生がどのように考えているのかのフィードバックを受けることが出来ました。例えば、エストニアのチームはアジアにおける伝統的な中国医療ケアについて関心がありました。そして私たちは個人情報保護の問題と便利さのトレードオフを考えなければと感じました、このようなたくさんの国の

事業紹介

皆さまと意見交換をする機会をいただき、感謝いたします。例えば他の一般的なテーマである音楽、スポーツ、芸術といったテーマであったならより参画者も増加したのではないかと感じております。

参加学生



エストニア

私はとてもよく企画されていると感じました。エストニアにとっても良い時間（土曜日の朝にスタート）でした。他国の健康福祉問題に関して知ることはとても面白かったです。たまに通信環境の問題でききとりにくいこともありました。でもそうであっても問題ではありません。もう少し少ないグループワークを国家を超えてできればよかったのではないかと感じております。

Va Nessa(Estonia)



タイ

各国の問題点について、スカイプを使って現地の人が直接伝えるということは文字で見るよりもリアリティがあり、より身近な問題として日本人の若者も感じられるのではないかと思った。ただ、プレゼンテーションするだけではなく、現地の状況がわかる取材のビデオ や生中継などがあればもっとイメージしやすくなるのでないかとも思った。スカイプを通してでも少しでも相手国の貧困状況などを知れることはお互いの国の為にもなるし、何か自分にできることを探しだす若者も出てくるかもしれないので、そういう若者を僕たちがよりサポートすることでよりよい世の中になればと思う。 あと気になったことは聴講している人の中でも積極的に参加している人もいれば消極的な人もいたので性格の違いがあるにしても参加しているからには全員が何かしら自分の意見を他者に伝えることが出来たらよかった。やはり国際交流をすることでいろいろな可能性が生まれるし、皆がイキイキとしゃべる姿を見て、将来がすごく楽しみになった。今貧困が問題になっている国が少しずつでも改善していけばと思うし、自分自身も小さいことでも、できることを考える機会となった。

坂本裕喜(Thai)

事業紹介

06 海外プログラム

- エストニア・フィンランドへ -

自国の歴史や文化を最も感じる瞬間は、日本を離れ、異国の地で異文化に触れた時でもあります。

今年のPCYプログラムは海外での視察を行い、現地で海外学生とその国の文化やSDGsのテーマに基づくディスカッションをすることにより、国や文化の違いを越えて世界平和に繋がる相互理解の輪を広げる機会としました。

技術革新の先にある人の在り方を模索する意欲を携えつつも、次代を共に創造する人びとの価値観を理解する人材を創り出すことをミッションとし、7月30日～8月4日の旅程で海外プログラムを実施いたしました。

今年のテーマである技術革新を体験していただく地として、最先端の電子政府やスタートアップとしても有数の場であるエストニアを、SDGsゴール3「健康・福祉」に基づき、世界でも有数の福祉国家である北欧・フィンランドを選びました。











事業紹介

- エストニア -

【1日目:7月30日】

初日は、関西国際空港からヘルシンキヴァンター空港まで直行便で約９時間の空の旅でした。飛行中は、北欧文化への理解を深めていただくため北欧映画とフィンランドミュージックを聞くという課題を学生の方々にはしていただきました。その後、空港からバスに乗り、ヘルシンキ大聖堂へ。これから始まる研修の前に束の間の観光を楽しみました。素晴らしい天候と美しい景色で気持ちのよい始まりとなりました。
ヘルシンキ港からフェリー“STAR”にのって、エストニアの首都タリンへ。船内では、ホットディッシュであるバーガーキングを食べながら、機内で見た映画やフィンランド文化、今回の旅に期待することなど様々な話題についてP・C・Yの３チームに分かれて意見交換しました。
そして宿泊先のMetropolホテルに到着したのは22時（日本時間朝４時）のため、早々と部屋に戻りました。



e-Estonia

デジタル社会を実現したエストニアの政府施設であるe-Estoniaショールームへ訪問しました。ここには、日本だけでなく世界から政治家やビジネスパーソンが視察に訪れます。学生たちもエストニアの最先端の取り組みを学び、体験しました。

【2日目:7月31日】

エストニアの首都タリンを舞台に、旧市街地散策や政府施設、スタートアップ支援を行っている金融機関を視察しました。

（タリン市街地散策）

午前中は世界遺産にも登録されているタリン市街地の散策プログラムをエストニアの学生及びJCIエストニアのメンバーと共に実施しました。独立１００周年を記念として造られたモニュメントや、エストニア国会議事、各国領事館などの街並みをエストニアの学生のガイドをうけて主として歴史や文化について様々な意見交換が出来ました。昼食はエストニア学生オススメのランチをみんなでいただき午後のプログラムへ移動しました。

（SEB銀行訪問）

SEB銀行では、イノベーション創出の方法を学びました。SEB銀行はスタートアップ企業の育成、企業のイノベーションを創出すべくワークショップやプレゼンテーションを多数行っており、同世代であるエストニアの学生の起業家教育などの状況についても学びました。

（夕食会）

2日目最後はエストニアの学生と交流ディナーで締め括りました。様々な点で意見交換ができ、技術革新の先にある人の在り方を考える機会となりました。

事業紹介

【3日目:8月1日】



（スカイプ訪問）

エストニア発のスタートアップ企業のスカイプテクノロジーを訪問しました。スカイプの歴史とこれから１０年に関してなど活発な質問が学生から飛び出し、エストニアの働き方について学びました。スカイプがきっかけとなって様々なスタートアップ企業が生じていることなども学びました。オフィス内はカラフルでアーティスティックな環境で、日本の企業オフィスとはまた違う雰囲気を感じながら見学しました。

（Mektoryにてレクチャー及びワークショップ）

Mectoryタリン工科大学で、研究室を見て回りました。こちらは様々な研究テーマに合わせた部屋があり、日本ルーム、アメリカスペース、インドルーム、オーストラリアルーム、ドイツルームなど国の文化を参考にしたもの、サウナとプール、ダンスホールの研究室、エネルギー研究室など用途に合わせた研究室がありました。また、多くの企業の協賛を受けており、Marimekko(マリメッコ)の部屋などもあります。

その後、エストニア発の運動であるworld cleanup dayのプレゼンテーションを受けました。
人口130万人の国エストニアから１５０か国に広がる運動となったパッションを感じるとともに行動することの大切さを学びました。

そして、JCIエストニアのヘンリー会頭にファシリテーションをしていただき、エストニアの学生と日本の学生が混じって、SDGsゴール３に関して日本とエストニア双方の国の課題、問題についてディスカッションとシェアを行いました。次世代を担う学生同士、価値観や考え方の違いにあらためて気づき考察を深める機会となりました。

その後フィンランドへ向かいました。







事業紹介

- フィンランド -

【4日目:8月2日】

（ISO OMENA訪問）

ヘルシンキ市の隣のエスポ―市にあるISO OMENAを訪問しました。エスポー市の新しい取り組みで、ショッピングモールと行政福祉施設の複合施設です。現地のガイドで、福祉も学んでいるアンティライネン知里さんに案内いただき、KELAやネウボラ、病院や図書館といった併設されている施設を見学し、国によって医療福祉政策の違いを学びました。

（LAPINLAHTIでのワークショップ）

午後からは、LAPINLAHTIという元精神病院で、現在はそのたたずまいを残すカフェなどの複合施設にて講義＆ワークショップを行いました。かつての精神病院は現在MENTAL　MUSEUMとして保存されており、見学したのち、東北福祉大学からラウレア応用科学大学に交換で来られている萩野先生に、日本とフィンランドの大学及び福祉事情に関する講義を受けました。その後、５グループに分かれてテーマを分けてワールドカフェの手法を用いて、ワークショップを行いました。フィンランドの学生たちと福祉についてディスカッションをし文化や背景を知ることで、その国に合った政策やそれぞれの国が抱える課題、問題点について気づきや理解が深まる機会となりました。

（HOLIDAYにてフェアウエルパーティー）

海外プログラム最後の夜は、海岸近くのフィンランド料理店HOLIDAYにて、フィンランドの学生と共に旅の思い出を振り返ると共に、互いの文化や歴史に関してのディスカッションをしました。

(KELA訪問)

フィンランドの社会保険庁KELA本部にてフィンランドの社会保障制度や子育て支援制度などについて伺いました。手当のひとつで、出産の際にもらえるマタニティパッケージは学生たちの興味をひきました。実物をみせていただきながらその他の手当てなどについてKELAの職員の方と意見交換をしました。



事業紹介











【5日目:8月3日】

（Aalto大学訪問）

イノベーション創出の大学と言われているAalto大学へ訪問しました。

Aalto大学は、2010年に3つの大学(Helsinki university of technology, Helsinki school of economics and the Helsinki university of art and design) が統合してできた新しい大学です。名前の由来は２０世紀を代表する有名なフィンランド人建築家であるAlvar Aaltoからであり、彼の建築した建物が大学内にあります。現地の学生に構内を案内していただき、様々な学部の垣根を越えてイノベーションを創出しているフィンランドの高等教育の現場を見学しました。アアルト建築のみならず、歴史を学ぶとともに大学の在り方について考える機会となりました。

（ヘルシンキ市街地ワーキングプロジェクト）

ヘルシンキ中央駅からヘルシンキ大聖堂までの道のりを歩きながら、石畳と歴史的な建造物や美術品に触れることでフィンランドの歴史と文化について感じ考える機会となりました。

事業紹介

今回のPCY海外プログラムにおいては、先進技術のエストニアと福祉大国であるフィンランドを訪問し、両国の文化に触れ、同世代の学生同士で意見交換をしました。それにより、未来を共に創造していく人びとの様々な価値観を受け入れること、歴史と技術、知識と経験が融合し、PCY（世界学生平和会議）が目指す「人類を進歩させ世界に調和をもたらすリーダーの育成」に繋がるプログラムとなりました。







JCIエストニア全国大会でのアワード受賞

当該プログラムは、JCIエストニア全国大会において「best international cooporate award(国際協調アワード)」「best national president special Award(会頭特別賞)」を受賞しました。

JCIエストニア2018年度会頭のヘンリーアンフォールド氏からは受賞理由として『バーチャルカンファレンスでは多くの国のプレゼンにより各国の課題を知る事が出来ました。また、 エストニアの学生と日本の学生がエストニアのタリン工科大学MECTORYにおいて互いの国の課題についてディスカッションした試みは先進的で、これからもこのような取り組みが他でもされる事を期待致します。』とコメント頂きました。




事業紹介

07 PCY2018 [プログラム内容・スケジュール]

合宿プログラムでは、素直な心を世界を拡げる気概を有する人材を創出することを目的とし、SDGsゴール3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」ことを主題にPCYメンバーがそれぞれのアクションプランを作成します。

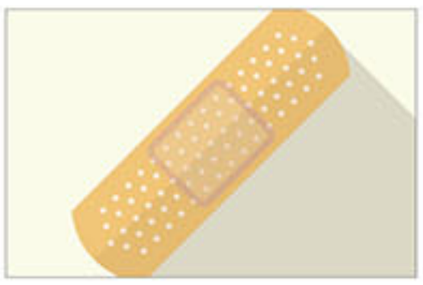
国連が任命する持続可能な開発目標（SDGs）に取り組む１８歳～３０歳までの若者である国連Young Leaderに興味、もしくは応募を意志をを抱いてもらう。



ファシリテータに大阪大学大学院准教授ヴァージル・ホーキンス先生をお招きし、ＰＣＹメンバーへのアドバイスと共にプログラムを遂行してもらう。



保健医療問題は持続可能な世界を実現する上で最重要テーマの一つであり、世界の医療問題にフォーカスし、問題を解決をする仕組みを構築する。



保健医療問題は持続可能な世界を実現する上で最重要テーマの一つであり、世界の医療問題にフォーカスし、問題を解決をする仕組みを構築する。



日本人学生と海外留学生を混合グループに分かれグループワークを行います。



フェローには過年度のＰＣＹ卒業生を迎え、プログラム遂行へのアドバイスに加え、ＰＣＹ体験談をお話ししていただきました。

事業紹介

08 PCY2018[9/6-9/8 グループワークプログラム]



国内留学生と海外学生が一堂に会してSDGsゴール3について話し合いました。海外留学生は、アジア（中国・モンゴル・バングラデシュ）４名、ヨーロッパ2名（スペイン・フランス）、アフリカ４名（マリ・コンゴ・南アフリカ）の留学生のご参加をいただきました。まずは、アイスブレークとしてじゃんけんぽんゲームで決まった代表が互いのグループメンバーについての名前と留学生の出身国、日本学生の学校紹介などについて発表しました。

グループワークではテーマ設定として、グループで３つのテーマを提出してもらいました。最終的にpolution大気汚染/traffic accident交通事故/prevent labor 労働問題/Nutrition 栄養/HIV aids エイズ問題/High technology高度な技術/gender gapジェンダーギャップ などがテーマとして取り上げられ「Issue :why is it important?なぜその問題が重要なのか？」「How is itrelevant to peace?平和との関連性は？」という観点からグループの代表が付箋を用いてホワイトボードに貼り付けしました。

１、エイズ羅漢率世界3位ボツワナのHIVの解決問題
２、イギリスにおける中高生のアルコール依存症の問題
３、モンゴルの大気汚染問題

の３つをテーマとして進めることが決まりました。

事業紹介



プログラム２日目となる9月7日には会場をホテルフクラシア大阪ベイに移し、プログラムの核心に迫ります。この日はメインフォーラムに向けてグループが一丸となり、より濃厚なコミュニケーションを取れるよう会場での宿泊としました。学生たちは真剣な様子で前日からの引き続きのアクションプラン作成に取り組みます。事前に設定されたタイムスケジュールでは22時までとなっていましたが、定刻を過ぎても研修室で、談話室でと、深夜まで各グループ協議を続けアクションプランの仕上げを念入りに行う様子が見られました。













事業紹介

09 PCY2018[9/9 SDGs×PCYフォーラム2018]



Break Through Osaka2018 EXPOの一貫としてSDGs×PCYフォーラムがナレッジシアターにおいて開催されました。高橋副理事長の開会の挨拶では、ダライラマ法王をお呼びして2010年JCI世界会議の記念事業としてスタートしたPCYの歴史、そして、開催趣旨を説明しました。

続いてファシリテーターを務めて頂いたヴァージル・ホーキンス先生に世界のSDGsに絡む問題に関してキーノートを実施していただきました。その後、PCY参加学生が３つのテーマである「VRで未成年のアルコール中毒を減らそう」「スター発掘inボツワナHIV感染を食い止めろ」「モンゴル国ゲル地区の子供たちの健康的な生活のために大気汚染による健康被害を軽減」のアクションプランの発表を行いました。連日のグループワークでしっかりと練り上げただけあり、このアクションプランの発表についてはアンケートにて多くの参加者に「学生の発表が大変良かった」「世界の問題に関する学びを深めることができた」などのコメントをいただきました。

最後に、矢本委員長より、３つのプレゼンについて、良かった点、よりブラッシュアップできる点に関して講評を交えて閉会の挨拶が行われました。







事業紹介

10 PCY2018[9/9 PCY2018修了式]

修了式は、さくらインターネットイベントスペースにおきまして、開催されました。長期に渡り、ご指導いただいたヴァージル・ホーキンス先生への花束贈呈をさせていただきました。また、過年度のPCYプログラムの参加者から参加学生に対して激励の言葉をいただきました。



そして矢本委員長より学生に終了証が授与されました。また、閉会の挨拶では山本副委員長から学生に対してプログラムの振り返りと今後も突き抜けた人材となって頂きたい旨を述べました。

学生からも、感謝の気持ちと設営準備への御礼、さらに今後取り組んでいきたいことについて一言づつ発表いただきました。学生からは起業をしたいとか、せっかく知り合ったこの仲間を大切に色々とやっていこうという心強い発表をいただきました。











成果報告

01 PCY2018アクションプラン

学生ができる世界平和の実現に向けて発表されるアクションプランについては、学生同士の中だけで終わらせるのではなく、突き抜けた人材が市民の皆さまの行動に影響を及ぼすためにフォーラムを行いました。また学生にとっても、多くの観衆の前で、設備の整った会場で発表を行うことは、モチベーションアップにつながり、場所の存在感に圧倒されながらも、学生にとってフォーラムに対する意識が高まりました。

PCY2018アクションプラン - Pグループ-

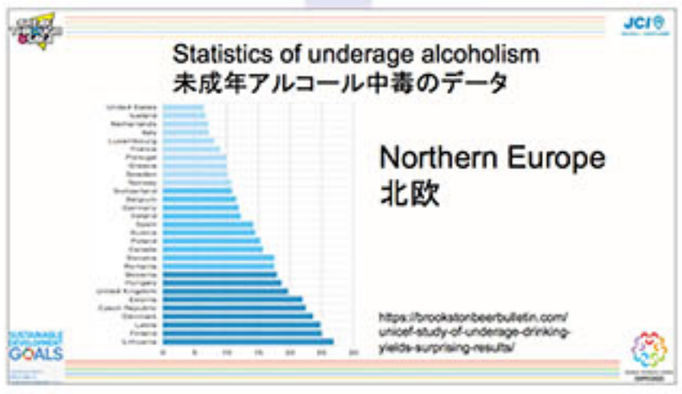
1



2



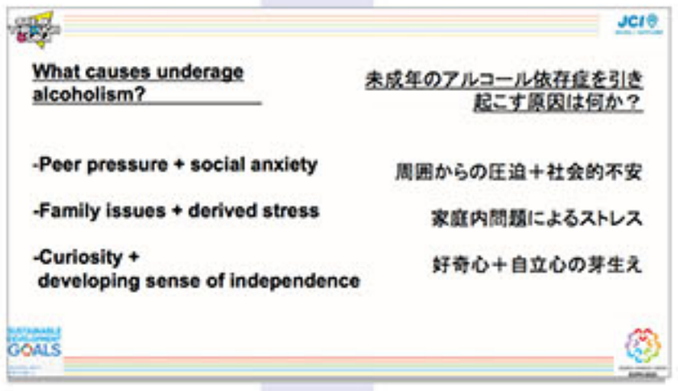
3



4



5



6



成果報告

















Pグループでは「VRで未成年のアルコール中毒を減らそう」という発表を行いました。

先進国において、アルコールの摂取年齢は低年齢化しています。特に、北欧の中高生は家庭内問題によるストレスや周囲からの圧迫及び好奇心、自立心の芽生えによりアルコール中毒になる学生が多く、社会問題化しています。

そこでPグループは中高生に対するアルコール中毒の啓蒙活動を行うべく、スクールエキスポとワークショップを年に一度行うことを提言すると発表しました。内容として、まずは保護者向けパンフレットの配布やブース及びクイズで集客を実施します。そしてVR画像を通じてアルコールが人体に与える影響を疑似体験することで、アルコールの危険性を感じてもらいます。なお、効果測定は理解と自覚に関するアンケートを用いる事とし、維持管理においてはローカル企業や地域の学校職員との協力を模索します。

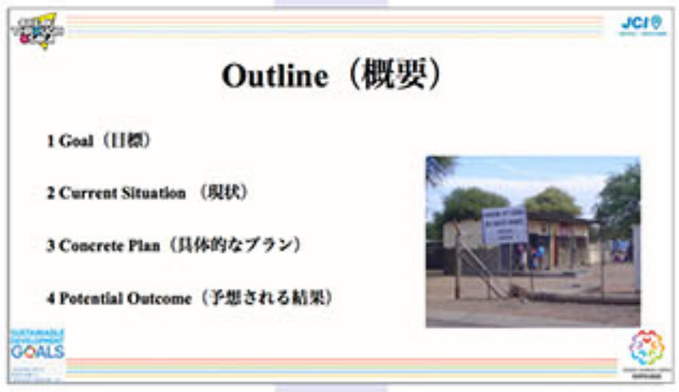
成果報告

PCY2018アクションプラン - Cグループ-

1



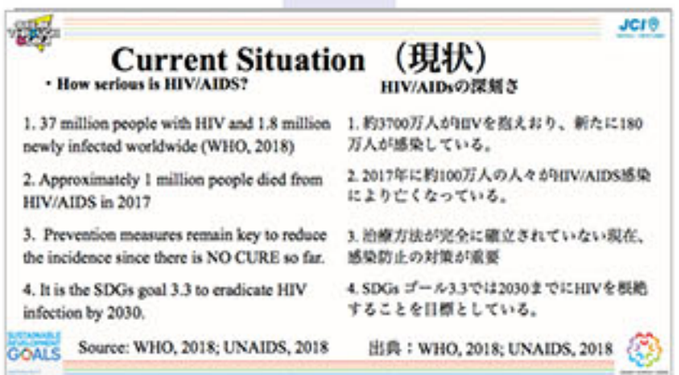
2



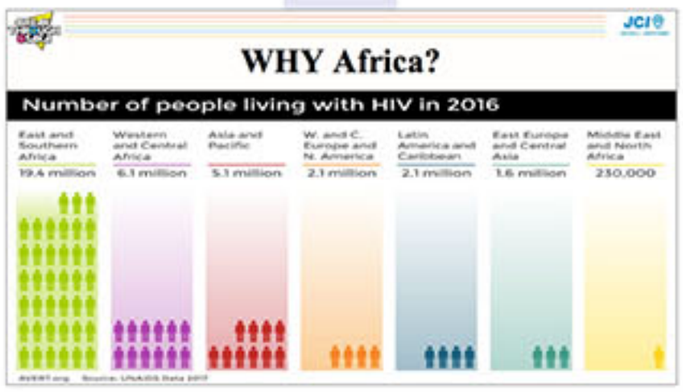
3



4



5



6



7



8



9

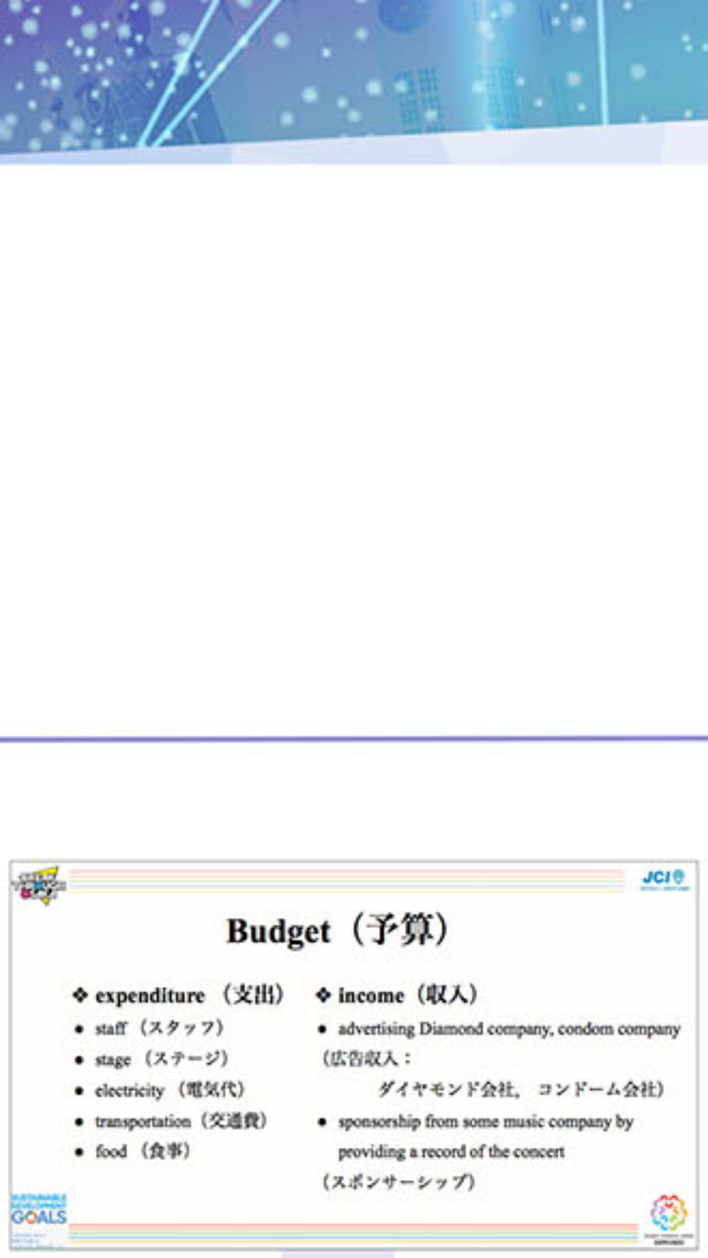


10

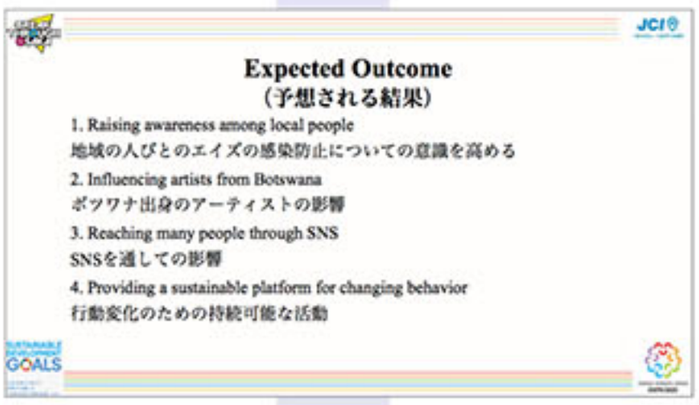


成果報告

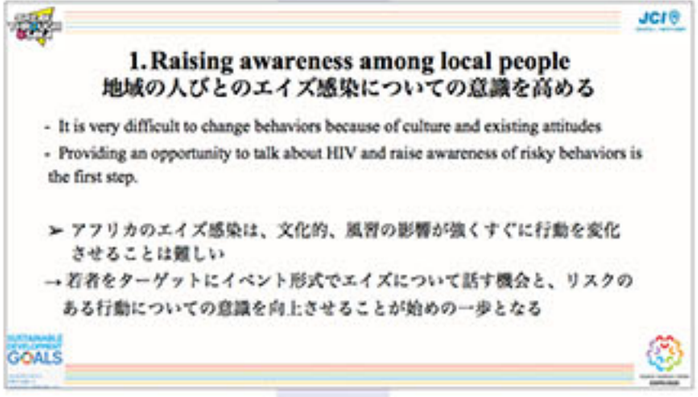
11



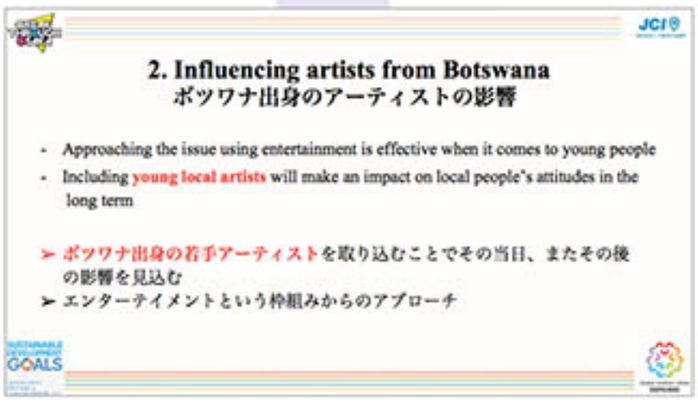
12



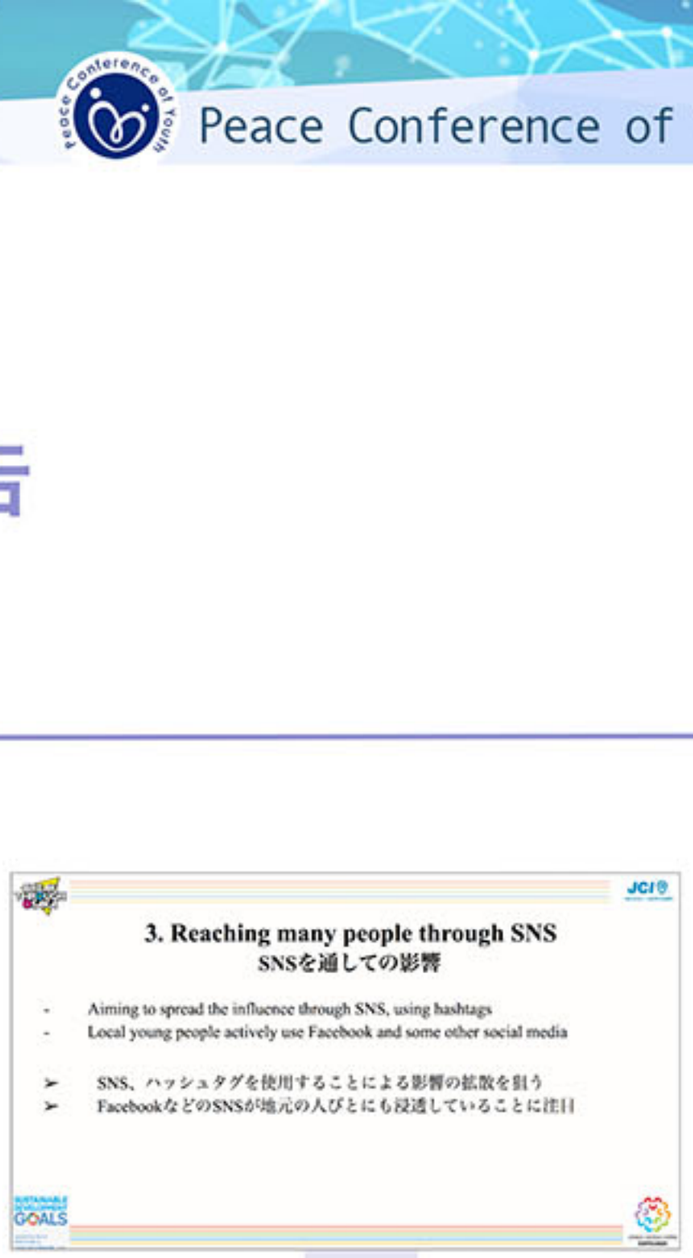
13



14



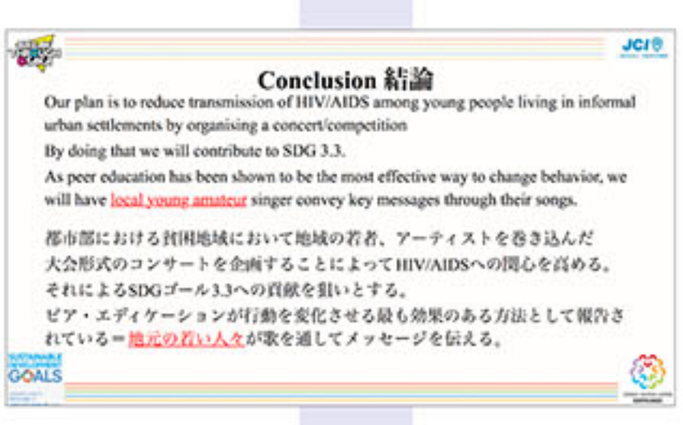
15



16



17



18



Cグループは「スター発掘inボツワナHIV感染を食い止めろ」と題し、目的をボツワナの都市部の貧困地域における若者のHIV/AIDs伝染を減少させることと設定しました。

現状として世界では約3,700万人もの人がHIVを抱え、2017年には約100万人の人びとがHIV感染により亡くなっています。その一方で治療方法は完全に確立されていません。SDGsゴール3.3では2030年までにHIVを根絶することを目標としていますが、ボツワナでは人口の21％、36万人のHIV感染者がいます。実際は更に酷い地域がありますが、アクション実施上の安全性を配慮した結果、アフリカのボツワナでアクションを行う事としました。Cグループはこのプロジェクトを「アフリカンアイドルプロジェクト」と題し、ガボローネで夏場1週間のプロジェクトを行うこと、音楽祭で地元の歌手を目指す若者を対象としてHIVに関するメッセージを含んだ歌を披露してもらうこと、結果として地域の人々のHIV感染防止についての意識を高め、ボツワナ出身のアーティストとして世界へ発信することで若者が夢を見る社会の実現を持続的に行うことができることを発表しました。

成果報告

PCY2018アクションプラン - Yグループ-

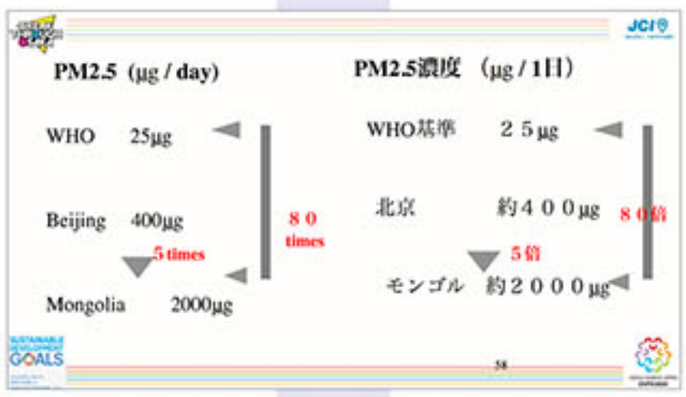
1



2



3



4



5



6



7



8



9

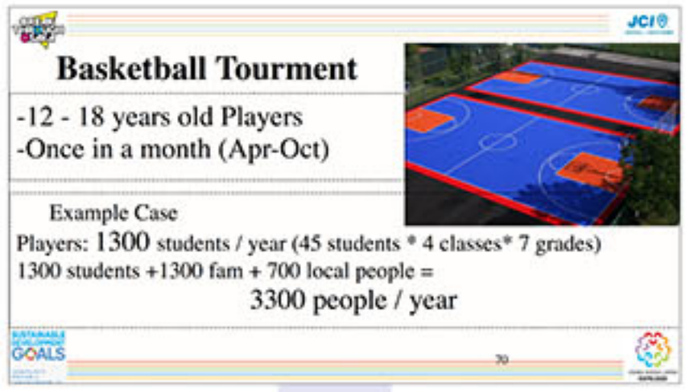


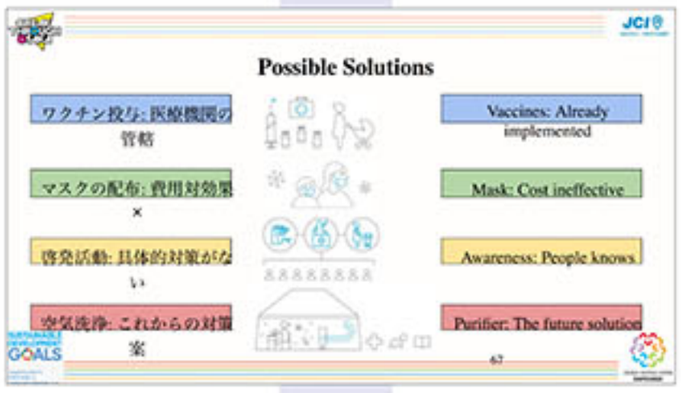
10

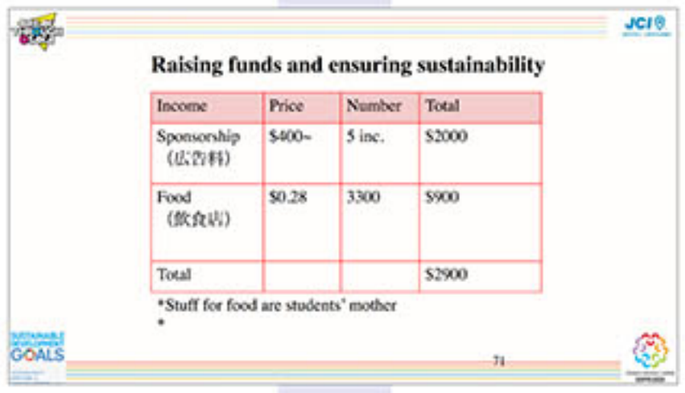


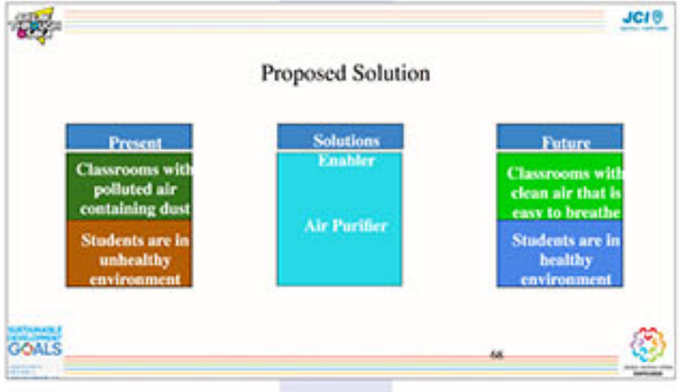
成果報告

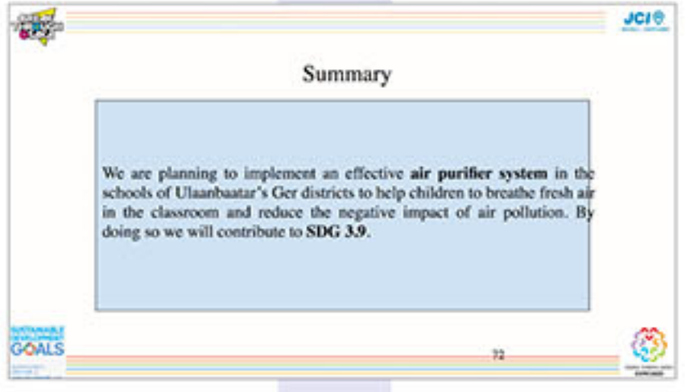


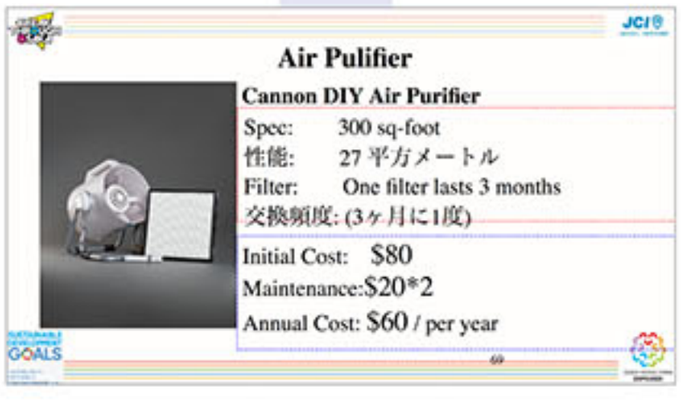














Yグループは、モンゴル国ゲル地区の子供たちの健康的な生活のために大気汚染による健康被害を軽減するアクションプランについてプレゼンを行いました。

SDGsゴール3.9では2030年までに大気汚染等による死亡及び病気の件数を大幅に減少させるとしています。モンゴル国の特にゲル地区は冬場、世界で最も大気汚染のひどい地域であり、これまで対策が打たれているものの現状について有効な対策ができていない現状があります。そこで、Yグループは子供が学校にいる間だけでも大気汚染の影響を受けないように、空気洗浄機を学校に配るアクションプランを発表しました。毎年夏に人気のバスケットボールトーナメントを行い、人と資金を集めて参加した人の意識も高め、継続的に行うことで持続可能な仕組みをつくる、というものでした。

成果報告

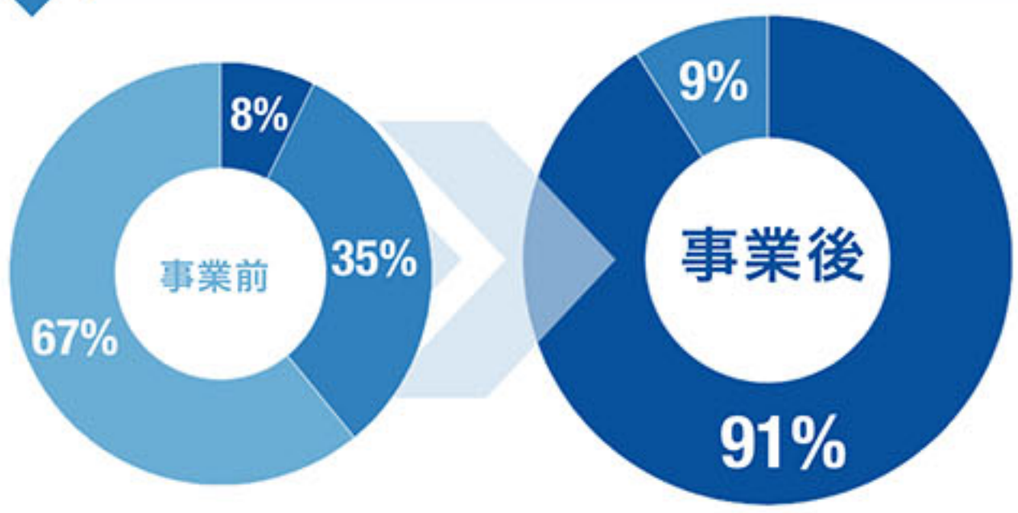
02 アンケート・意識調査結果

- PCY2018参加学生の事業実施前後における意識変化について -

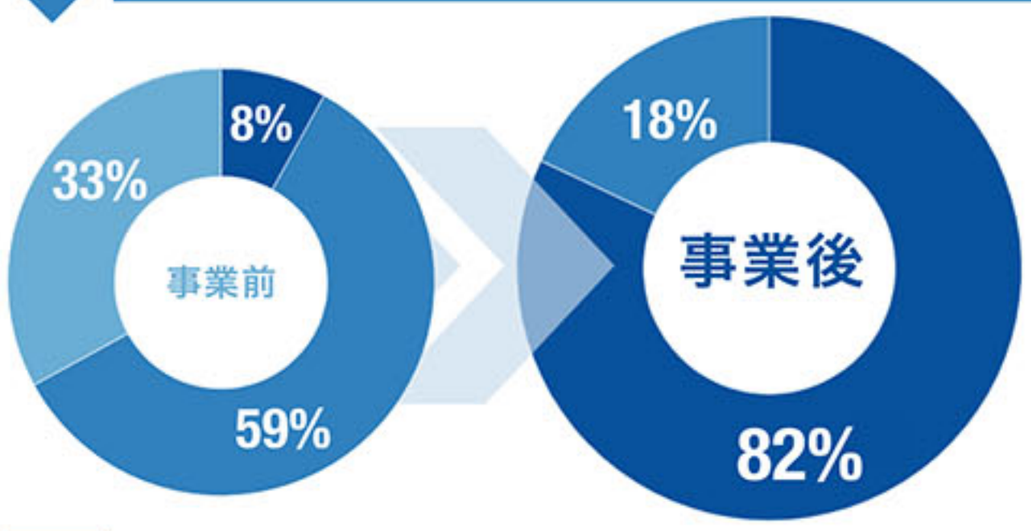
学生の意識調査を目的として実施した事前・事後アンケートでは、PCY事業実施前後で参加学生の「世界の諸問題への視点」「技術革新」「理想の未来像」の意識が特に高まった事を確認できました。

強い / やや強い / 普通 / やや弱い / 弱い

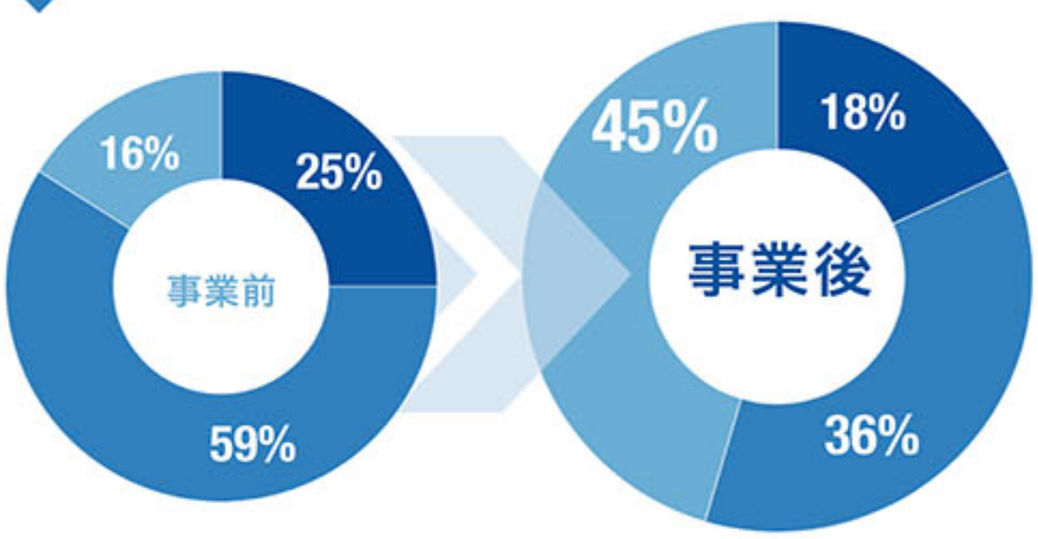
1 世界で起こる諸問題への関心がある



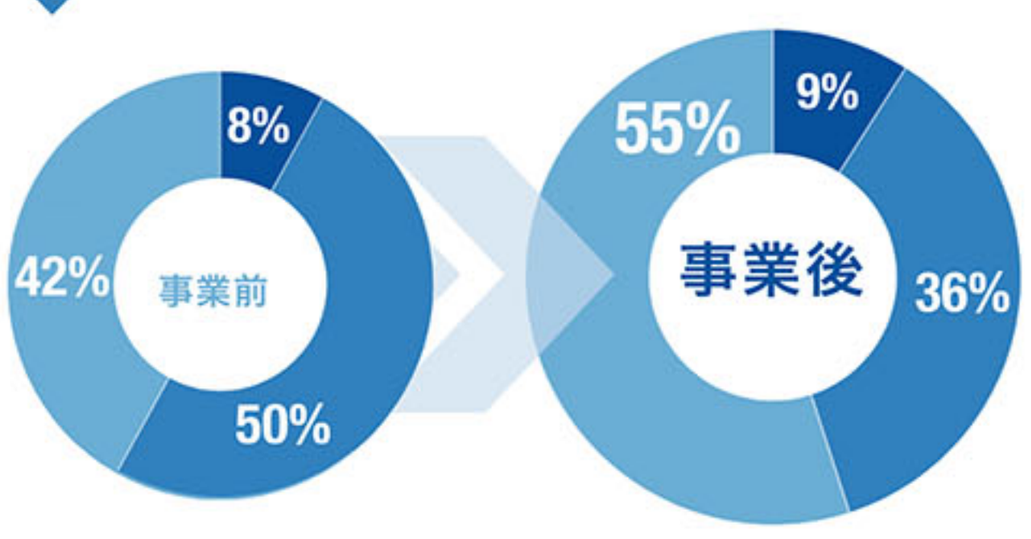
2 世界で起こる諸問題が自身の生活へもたらす影響を考えた事がある



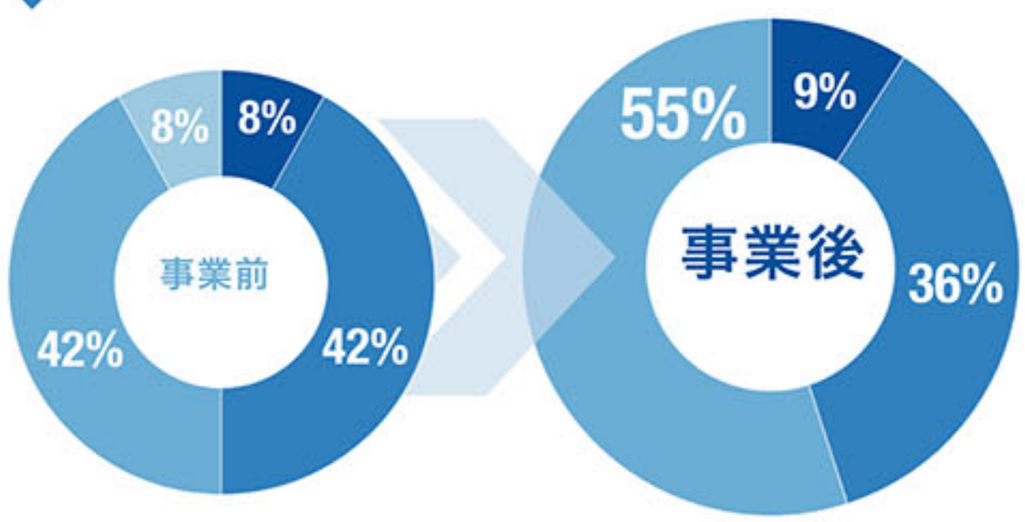
3 未来に対して自身のやりたい事がある



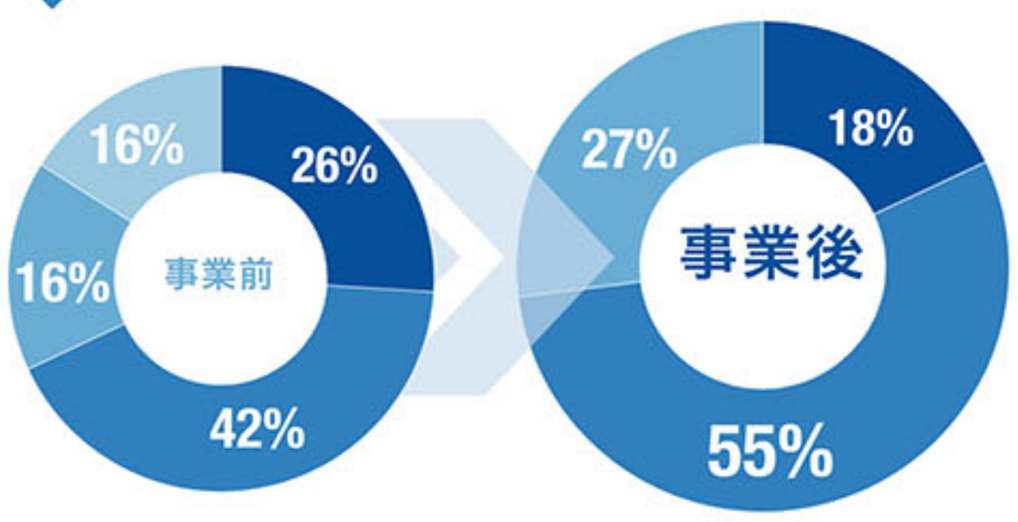
4 今の世の中の悪い部分を良くしたいと考えることがある



5 世界の理想の未来像を考えることがある

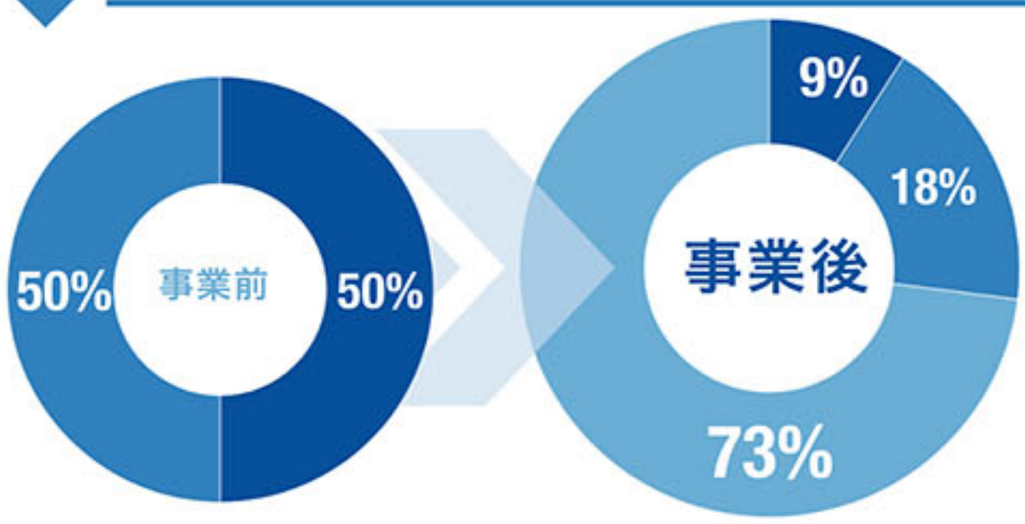


6 他者の力を引き出しチームとしての成果を出すことができる

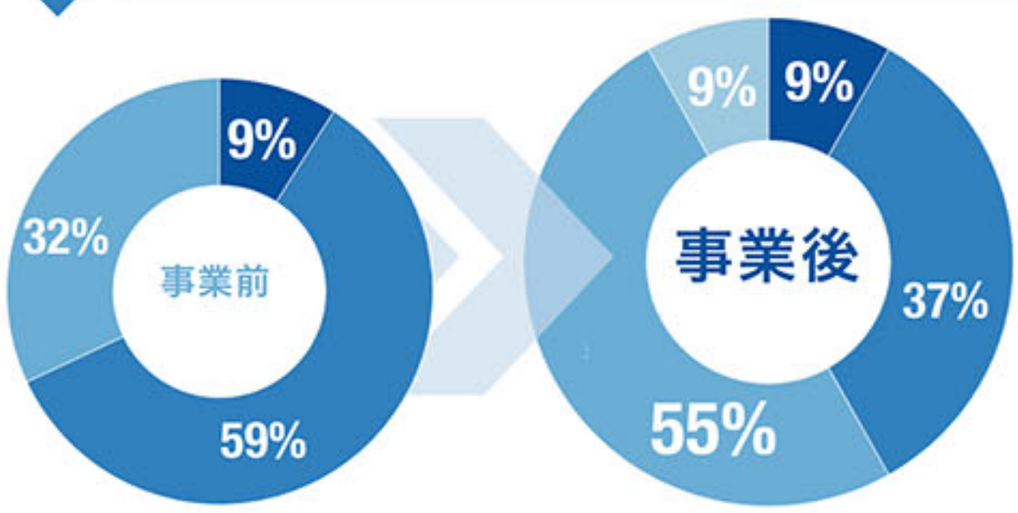


成果報告

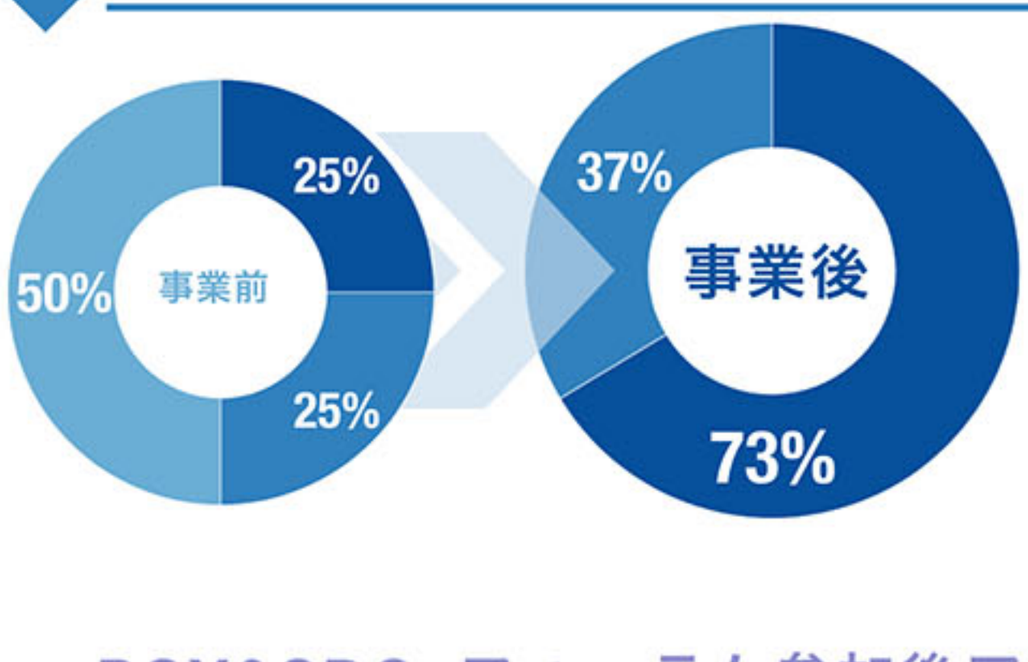
7 技術革新の先にある人の在り方について関心がある



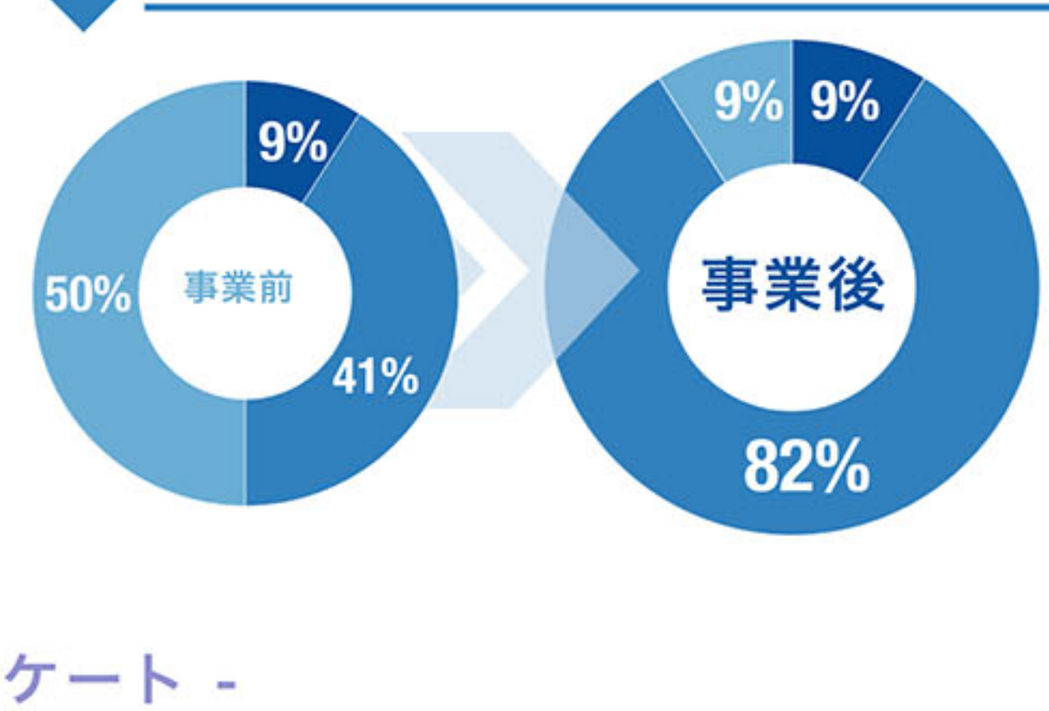
8 同世代(次世代を共に創っていく人びと)の価値観を理解している



9 これからの未来をつくるのは自分たちであるという意識がある

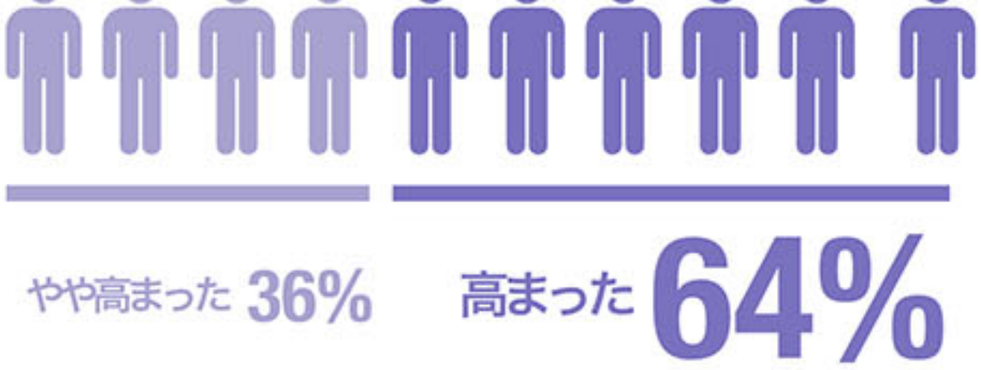


10 自国や世界がよりよくなるように積極的に行動したいと考えている



- PCY&SDGsフォーラム参加後アンケート -

1 「物質的にも精神的にも豊かさをもたらす未来」を実現する意欲が高まりましたか



やや高まった 36%

高まった 64%

2 国連ヤングリーダーに応募する意欲は高まりましたか



18%
どちらとも言えない

82%
高まった+やや高まった

成果報告

3 その他何か意見・質問などがあれば自由に書いてください。

●多くのことを学ぶことができました。PCYはじめ、このようなプログラムを運営してくださっているJCの皆様ありがとうございました。

●この度はこのようなプログラムを与えていただき誠にありがとうございました。

●今回フォーラムは一から自分たちでテーマを考えて発表するという形だったので、力が必要な場面も多くあったが、最後まで完成させたという達成感と良い経験をしたという充実感は得られたと思う。これからその経験を次の価値に繋げていけるよう頑張りたい。

●4月からPCYプログラムで本当に色々とお世話になりました。ありがとうございました。

●PCYで学んだことは私にとって精神的にも考えの面でも多くに変化をもたらしたと実感しています。”PEACE”についてSDGsゴール3を通して考えたことは初めてで、 世界の人がどうそれについて考えているのか、また世界中で具体的にどういった問題があるのかまたその上でどういった問題策を立てていくべきなのかをしっかりと考える機会を与えていただきました。

●PCYで学んだことを今後に生かして頑張っていきたいです。ありがとうございました。

●半年間プログラムを通して多くの学びや気づき、新しい目標を見つけることができました。講演やグループワーク、海外研修、合宿、どれも普段できない体験で自分の将来に向けて、意識や姿勢にも変化を感じることができました。今後の大学生活の4年間はもちろん、就職しても必ずこの経験を活かします。

●普段いる環境から外に出て新しい人や物に出会う大切さも実感しました、PCYプログラムに参加した経験はとても自信になります。今後も新しい事にたくさん挑戦していきたいです。貴重な経験をさせていただいて本当にありがとうございました。

成果報告

参加学生の声

●海外プログラムで新しい体験をし、全く異なる背景の学生とコミュニケーションを取る事で、たくさんの刺激を受けることができた。

●実際今回のプログラムを進めていく上でモンゴルのゲル地区の現状を詳しく知ることができました。他の国のこういった深刻な現状を知ることにより、さらに“物質的にも精神的にも豊かさをもたらす未来”を実現しようとする意識が高まりました。

●物質的に日本は既に豊かであると思うが、精神的にはまだまだ課題があると思う。その様々な課題を解決することのために、私も将来何らかの形で貢献したい。このプログラムで才能あふれる同世代の学生たちに触れそう思えるようになったと思う。これからもこのネットワークを続けていきたい。

●今回PCYの目標とされた「すべての人に健康と福祉を」について最初は自分に自信と十分な知識がないと感じたが、豊かな未来を実現するためには、とりあえずは世界問題について理解しそれを行動に移すことを改めて実感しました。

●国連のSDGsゴール3を考えることを通して、豊かな人生というのは物質的な要素と精神的なものとのバランスが非常に重要だと感じた。私のチームはHIV感染についてアクションプランを発表したがそれもアフリカの人々の文化的・人間的な側面は無視することはできない。今回のフォーラムではそのあたりまえのようで普段忘れかけていることについて考えさせられた。

●今の時代は物質的に豊かな先進国でも精神的には豊かというとそうではないケースが多く見受けられましたし、逆もまた然りだと思います。ただ、未来を担うPCYの若い世代が一人一人動くことで大きなINNOVATIONを起こすことができるのだと実感できました。

●今回はSDGsゴール3に向けてアクションプランを考察したことで今後私たちがどのような未来を目指していくべきかを改めて学ぶことができた。

●アイデアを持って世界に挑戦したいと思う色々な経歴を持った人に出会い、さまざまな意見を聞くことにより以前よりも世界で起こっていることに目を向けるようになり、国連ヤングリーダーへの関心が高まりました。

●今まで国連ヤングリーダーについて知らなかったけれど、今回で身近に感じられるようになった。これからもっと成長できれば応募することも考えたい。

記録-ファシリテーター紹介

大阪大学大学院 国際公共政策研究科 准教授

Virgil HAWKINS（ヴァージル　ホーキンス）



国際政治・紛争研究（特にアフリカ）・メディア研究が専門。情報通信技術が発展し自由な情報発信が行われる世の中において『報道されない世界』が存在する事に目を向け、メディア・報道の観点から世界が抱える様々な課題に対して効果的な政策を打ち出す情報の流れを研究する。特定非営利活動法人AMDAザンビア　駐在代表・アドバイザー・ザンビアオープン大学　非常勤講師を経て現在は大阪大学大学院にて教鞭を執る。

ファシリテーターからのコメント

今年のPCYは保健医療問題を取り上げましたが、参加者が問題解決につながるアクションプランに取り組む前から、さまざまな角度からこの問題については学ぶ・考える機会が多く用意されていたことが印象的でした。先進国が直面する問題は現地で見ることができ、またスカイプ会議を通じて、アジアやアフリカからも学ぶこともできました。このような体験があったからこそ、問題の本質を捉えた、かつ現実的なアクションプランにつながったのではないと感じました。

今年は過去に比べ、アクションプラン作成にかけることができた時間が限られていましたが、それぞれのグループが熱心に取り組み、チームワークと集中力でそのハードルを乗り越え、短時間で質の高いアクションプランができたことを評価したいと思います。HIV/AIDS問題、若者のアルコール中毒問題、空気汚染問題が今回のPCYで取り上げられたが、それぞれのグループがたどり着いた対策は斬新で興味深いもので、プランは詳細まで探ることができました。今年のPCYのメンバーの将来にも期待しています。

記録-広報活動

- PCY公式サイト -

https://pcy.osaka-jc.or.jp/




【活動報告　Report】2018

2018/08/14

PCY２０１８海外プログラム御礼

PCY2018海外プログラムにて7月30日～8月4日までIT先進国エストニアと高福祉国家フィンランドへ学生16名と共に行って参りました。
プログラム実施に当たり、非常に多くの方にご協力を賜り、無事に終わることができました。誠にありがとうございました。
引き続き、PCYをよろしくお願いいたします。

国内留学生ただいま絶賛募集中！
エントリーは下記よりお願いいたします。
http://pcy.osaka-jc.or.jp/pcy2018/japanese/entry2018.html
＃PCY　＃大阪青年会議所　＃SDGｓ　＃JCI　＃JCIエストニア　#JCItoompea ＃eestonia#SEBbank ＃LAPINLAHTI #東北福祉大学　＃フィンランド仙台健康福祉センター　＃Mektory　＃千鳥屋

2018年度PCY公式サイトでは例年通り学資募集や事業紹介を行うほか、活動報告コンテンツでの積極的な情報発信を行いました。

また、本年度の新たな試みとして実施したヴァーチャルカンファレンスは会場外の方にもご覧頂けるよう公式サイト上でリアルタイム配信を実施しました。

- Facebookページでの広報活動 -

https://www.facebook.com/PeaceConferenceOfYouth/



Facebookページでは事業概要の周知やSDGsゴールの解説、学生募集の呼びかけ、事業当日の様子の発信など多岐にわたる内容で体外に向けて事業のアピールを実施しました。投稿では画像や動画を効果的に活用し、事業告知はイベント告知ページを活用するなど、単なる情報発信ではなくより効果的なアプローチを心がけました。

なお、PCYのFacebookページは2010年度より継続して利用していますが、本年度16,000いいねを達成。本年度だけでも約1,800いいねの純増が確認でき、Facebookを利用した広報活動は十分効果があったと考察できます。

記録-参加学生一覧

- 国内学生 -

摂南大学	二階堂遥菜	HARUNA NIKAIDO
大阪薬科大学	濱本貴子	TAKAKO HAMAMOTO
近畿大学	山之上美貴	MIKI YAMANOUE
同志社大学	安多陽大	YODAI YASUTA
神戸市外国語大学	平田彩	AYA HIRATA
流通科学大学	中西景子	KEIKO NAKANISHI
流通科学大学	中井隆斗	RYUTO NAKAI
同志社大学	樋口美優	MIYU HIGUCHI
同志社大学	扇谷奈々	NANA OGITANI
同志社大学	湯浅大輝	DAIKI YUASA
同志社大学	東井みなみ	MINAMI AZUMAI
立命館大学	山本昴太朗	KOTARO YAMAMOTO
京都府立医科大学	山添万愛	MAI YAMAZOE
関西大学	北井りた	RITA KITAI
近畿大学	鶴巻史暉	FUMITERU TSURUMAKI
関西学院大学	バークホルダー謙	KEN BURKHOLDER
関西大学	世古口 航	KO SEKOGUCHI

- 海外留学生 -

スペイン	Mark Westmacott
フランス	Bastine Golding
バングラデシュ	Masuqur Rahman
モンゴル	Odgerel Amirlan
中国	Yu WANG
マリ共和国	Sidibe Alimata
マリ共和国	Asmao Diallo
コンゴ民主主義共和国	Abdul Jabber Suhyakuman Chaeus
中国	Jiaru Li
南アフリカ共和国	Mbali Nkwali
スペイン	Alba Piles

記録-スタッフ一覧

-2018年度 世界変革室　相互理解確立委員会 -

委員長　矢本　浩教
総括幹事　石井　孝昌
運営幹事　川嵜　啓伍
書記幹事　山根　友也
広報幹事　西涌　修平
会計幹事　林　沙織
副委員長　磯田　達也
TL　大石　慎太郎
杉田　哲明
津村　多樹
高林　央
TL　澤田　武志
小淵　隆大
工藤　恵太郎
道野　弘済
高藤　勝一
大城　晴香
副委員長　北田　昇平
TL　桑原　悠一
平　如将
TL　中須賀　高典
TL　中島　雅子
中峯　将文
張　華強
前田　真知
光信　嘉久
小川　将史

副委員長　熊井　麻千子
細川　直人
TL　宇野　裕明
畢　志鵬
前川　晃一
表　秀和
徳矢　卓洋
坂本　裕喜
藤尾　雄一
西井　重超
範舎美　ロニール
長谷川　浩久
副委員長　山本　哲史
TL　秋本　賢
奥山　隆輔
金村　聡
中川　隆資
青木　紘史
TL　富田　弘子
TL　小林　篤史
森下　修二
山田　隆則
平山　武彦

副委員長　森　崇紘
TL　白石　陽一
TL　山方　拓也
叶　郁美
黄城　介男
西村　雄大
松原　誠道
籾井　浩柄
木元　香織
友野　隆光
今村　昭悟
廣木　学
藤原　寛
高橋　隆亮

記録-Memorial photo

















①エストニアタ食 ②エストニア昼食 ③MECTORY ④e-estonia ⑤Skype訪問後の昼食⑥MECTORY JAPAN ROOM ⑦ナイトクラブ用研究室 ⑧MECTORY 便利な椅子

記録-Memorial photo

















①KELA マタニティーボックス ②MECTORY 回転椅子 ③ワークショップ ④ホテルフクラシアにて昼食 ⑤ホテルフクラシア PCY ⑥フィンランド ガーデンワールドカフェ ⑦フィンランド メンタルミュージアム ⑧ホテルフクラシア PCY

一般社団法人 大阪青年会議所

〒552-0007 大阪府大阪市港区 オーク4番街プリオタワー 4F
TEL:06-6575-5161 FAX:06-6575-5163
Web:https://www.osaka-jc.or.jp/ Mail:ojc-oce@osaka-jc.or.jp

Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所